

別紙（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	平成25年度 第2回和泉市男女共同参画審議会
開催日時	平成25年10月31日（木） 午前10時00分から 午前12時00分まで
開催場所	市役所3号館 3階委員会室
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画審議会委員 山下委員、宮田委員、松田委員、佐藤委員、西村委員、前田委員、堀川委員、谷口委員、大平委員、川端委員、大橋委員 ・事務局 藤原総務部長、清水総務部次長兼人権・男女参画室長 藤原男女共同参画担当課長、向久保主幹、武市主査、 ・委託業者 株式会社 名豊
会議の議題	<ul style="list-style-type: none"> ① 平成25年度男女共同参画市民意識調査の結果報告及び調査結果報告書（案）の検討について ② その他
会議の要旨	平成25年度男女共同市民意識調査の結果報告、及び報告書（案）について審議を行った。
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
その他の必要事項	

審 議 内 容 (発言者、発言内容、審議経過、結論等)

(議長)

それでは、早速議事に入ります。

まず案件1ですが、市民意識調査の結果報告と意見回答書について事務局から説明、その後、皆さんからのご意見をいただくということで進めます。事務局より説明をお願いします。

(事務局から説明) 案件1説明

(議長)

審議に入る前に1点確認ですが、対応の中で数値を把握した上で、分析に値する場合は報告書に掲載いたします、と意見回答書の24番25番29番に出てきますが、これは市のほうで分析し、それを適宜判断していくという主旨ですか。

(委託業者)

事務局では、バックデータとして数値を持っています。その数値結果を再度把握した上で、会長とご相談させていただき、追加修正等を検討と考えております。

(会長)

今日審議するこの報告書は、どのような流れでこの後審議していくのですか。

(事務局)

本日ご審議いただきました内容を踏まえまして、事務局で報告書案を作成し、最終は会長並びに副会長にご確認をいただいた上で、来年2月頃には市のホームページに公表する予定としています。ただし、速報として、男女共同参画センターだより等において公表を予定しております。また、概要版につきましては前回もご説明しましたとおり、広報いずみ4月号と併せて全戸配布を予定しております。なお、次回の審議会にて、概要版についてご審議いただく予定としております。

(会長)

事務局の今の説明であれば、報告書に関して皆さんのご意見をお聞きするのはこれが最後となるかと思っておりますので、ご意見いただきますよう、よろしく申し上げます。

審議の進め方ですが、まず意見回答書の中で「委員の意見を聞いた上で検討いたします。」と何箇所もあり、行政のほうから意見を求められているところがあります。まずここを優先的に審議した後、対応なども含めて、他に意見回答書についてご意見もあろうかと思っておりますので、それをお聞きします。最後に意見回答書にこだわらず、何かご意見があればお聞きするという3段階で進めますのでよろしく申し上げます。まず、意見回答書で意見を求められているのもので、最初に意見番号6番、報告書の1ページ目、「ク

ロス集計の説明がよく分かりません。」ということで、よろしければご意見を書いていた委員さんからどの辺りが分かりにくかったのか説明いただき、議論をしていきたいと思いをします。

(委員)

市民さんの立場に立った場合、これでは分からないのではと思った次第です。

(会長)

クロス集計とは何か、ということが分かりづらいということでしょうか。

(委員)

そうです。

(委員)

私もそんなにクロス集計は詳しくないですが、これは統計学の専門用語であるので、あえて一般市民の方に細かく知ってもらう必要があるかないか、書かなくてもいいのでは。どこかに表記をいければ、そんなに細かいことを知ったからどうという話ではないと思いをします。

(委員)

もっと分かりやすく表記していただけないでしょうか。

(委員)

おそらく、グラフ等の項目別の結果については、ここの項目はクロス集計しましたという言葉が全然出てこない。ただ前にクロス集計の場合は、と書いてあります。どこがクロス集計したかというのは文章を読んでも分からないので、逆に、委員さんがおっしゃるように、この行を削除して6つの項目について関連性は調査していますというように、あえて書かなければならないのであれば書く、別にクロス集計の場合は、という項目をはずしてもいいのではないかと、私も思いをします。

(事務局)

個々のクロス集計につきましては、例えば39ページをご覧ください。一番上で、通常は性・年代別としているだけですが、ここに配偶者・パートナーの有無別ということで、配偶者・パートナーがいるかないかで、どのような影響があるかを見ている。このような形式がクロス集計となります。ここで表示していますので、あえてクロス集計がどうこうというのは、委員のご意見のとおり説明は別にいらんいかも知れませんが。

(委員)

読んだ人にとって、とても難しい表現になるのでは。

(委員)

細かいクロス集計の説明はいらないかと思いますが、とりあえず単純集計をした場合とクロス集計をした場合とでは、数字が違ってくるということをここでは言っていますよね。そのことを説明しなければ、数字が違うということに気付いた方が、違うものを出しているのかと無責任のように受け取られかねないのではというのが少し気になります。そのことは大丈夫だろうということであれば別にいいですが。

(会長)

これに関して、何かご意見はありますか。

(事務局)

いろいろなご意見をいただきましたので、あとは業者ともう少し中身を吟味し、できるだけ分かりやすい形で修正を考えたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(会長)

よろしいでしょうか。それでは、次 13 番 10 ページ目の男女共同参画について、「男女別比較、年代別の比較があればより幅の広い分析ができるのではないのでしょうか。」ということでこのご意見の方お願いします。

(委員)

今、例えば若者たちがいわゆる役割分担意識が高くなっているなど、それが把握できるものとして、年代別にすれば分かるのではないかと思います。

(会長)

これに関して何かご意見はありますか。

(委員)

14 ページ、15 ページでは、法、制度について、性・年代別の集計であるが、10 ページ 11 ページの言葉について性別と年代別の把握、そこがバランスを欠いているのではないのでしょうか。全体的に見て思うのは、年代別や性別のクロスをどこにかけて、どこにかけないのかがよく分からない。あるところにはかけて、あるところにはかけない、その意図がよく分からない。どういう選択でこの問題には性別、年代別をかけたのか分かりにくいところがあると思います。

(会長)

この点に関しまして何か意見はありますか。

(委員)

そのような意味では、委員さんが言われたように、ここに性、年代別があった方がいいと思います。言葉を知ってるか知らないのかというのは非常に意識としては重要なことだと思います。

(会長)

入れた方がいいという意見が出ましたが、事務局いかがですか。

(事務局)

それでは入れるという方向で、性・年代別を集計させていただきます。

(会長)

では次、16番14ページで、『見たり聞いたりしたことがない』が3割程度となっていますが、『見たり聞いたりしたことがない』割合が減少し、3割程度になっています」とした方が分かりやすいのではないか、というご意見ですが、このご意見を述べた方をお願いします。

(委員)

15年から25年にかけて、「知っている」も「聞いたことがある」も増えているし、「知らない」という人について特徴として強調した方がいいのではないかと思ったので、3割になっていますというよりは、「すごく減少しました。」に変えてみてはどうかと思いました。報告書の後ろのほうでは、「高く」とか「低く」とかいう考察が入った文章が入っていたので、ただの結果だけの記入ではなく、考察も入れたほうがいいのではないかと思いました。

(会長)

要するに、増減が出たほうがいいということですね。これについて何かご意見はありますか。

(委託業者)

平成25年度と15年度の調査で回答の項目を若干異なる形で聞いておりますので、現在のコメントとしては、一概に比較することが難しいという理由から事実関係のみをコメントにしております。しかし、そのほうが分かりやすいということであれば修正させていただこうと思います。

(会長)

質問の内容が違うというのは具体的に何が違いますか。

(委託業者)

25年度は、「増えた」、「以前と変わらない」、「見たり聞いたりしたことがない」、という回答項目で聞いていますが、10年前は、「知っている」、「聞いている、聞いたことがある」、「知らない」という形で、聞き方が少し違います。必ずしも「知らない」と、「見たり聞いたりしたことがない」というのを比較という形はどうかということで、事実関係のみをコメントとしました。

(会長)

今の説明で、何かご意見はありますか。

(委員)

では、比較すること自体がどうでしょうか？

(事務局)

平成 15 年度に行った調査について、質問している内容が若干、ニュアンスが違うかと思います。他のページでは、質問が違うものについては参考ということで下に掲載している所もあります。

(委員)

質問自体が違うものを比較するというのは非常に誤解を生むので、違った場合には参考として載せるだけで、25 年度の調査の結果だけ分析して載せる、後は見た方がそれぞれに理解していただくという文言に変えてはいかがですか。あえて「15 年度調査と比較すると・・・」という文言では誤解を生みますので。

(委託業者)

では、今のご意見をいただきまして、「平成 15 年度調査と比較すると」という文言は削除し、参考として修正いたします。

(会長)

よろしいでしょうか。次に、意見番号 17 番、「就労形態別の比較もしたほうがいいのではないのでしょうか」というご意見ですが、このご意見を述べた方お願いします。

(委員)

性別とか経年とか年代別は書かれていますが、例えば、家庭生活や、地域活動の場であるとか、様々な形の質問に対して、就労の状況によって変化があるのではないかと思います。正規、非正規などの就労状況の違いによって差異が生じてくるのではないかと思います。

(会長)

みなさんいかがでしょうか。

(委員)

就労形態別ということであれば、64 ページ、65 ページで、これは子どもの年齢が入っていますが、「有効回答数が少ないため参考にとどめます。」となっています。また、96 ページでは全部年代別が出ています。20 歳代女性で 35 件、30 歳代で 62 件、このあたりの関係がどうなっているのかという点が分からなかったのですが、「参考にとどめます。」ということは回答数が少なかった、それと今言われているのと同様関係してくるのではないかと思います。

(委託業者)

ご指摘のとおり、64 ページ、65 ページについては子どもの年齢ということで、子どもがいる方の就労形態に限られているので、さらに有効回答数が少なくなっています。例えば、男女別の就労形態であれば、もう少し母数が確保されると思うので、追加することも可能であると思います。ただ、①から⑦まで全部の項目に就労形態が必要かどうかという点は少し検討事項ではあると思います。

(会長)

数字上は比較できるみたいですが、あとは、比較した方がいいでしょうか。ご意見はありませんか。

(委託業者)

設問の意図から考えて、報告書のボリュームもありますので、①家庭生活では、②職場では、⑤政治の場では、⑦社会通念、慣習しきたりなどでは、という①、②、⑤、⑦、の部分について、就労形態別で下がるのではないかという仮説が立てられるかと思うので、この4項目について追加をするというのはいかがでしょうか。

(会長)

このような提案が出ましたがご意見はありますか。他ではあまり就労形態別は出てこないですね。

(事務局)

参考ですが、84 ページをご覧ください。問 23 番で職場での仕事と生活の調和を図るワーク・ライフ・バランスの考え方がありますが、日々の暮らしの中での時間の使い方について、「あなたの希望と現実をお答えください。」という質問に対しまして、84 ページ②の現実では就労形態別で表を出しています。もう1つが115 ページ問 34、「女性が結婚や出産、子育てをしながら仕事を続けるためにあなたはどのようなことが必要だと思いますか」という質問に対しまして就労形態別の表を載せております。

(会長)

事務局からは4項目だけ入れてはどうですかという提案ですが、どうでしょうか。

(委員)

働き方の違いもあり、家庭生活も違うことで、意識も違うだろうという、私の推測の基に言わせてもらったのですが、事務局のあげた項目でいかなと思いますか、選択をしたものだけが分析できますか。

(委託業者)

バックデータとしては、事務局で持っておりますので一応一通りの項目について、就労形態別に差異が出ているかどうかということは把握できます。その点を踏まえた上で、差異があるものについて①②⑤⑦を想定しながら追加をするということで、差異がないのに全て追加するというのでは報告書としても特徴のないものになるため、差異のあるもののみ追加するというのはいかがでしょうか。

(会長)

よろしいでしょうか。では次に、19番28ページで『居住年数が短いほど男性が優遇される割合が高くなる傾向がみられます』は、女性のほうだけではないでしょうか」ということで、このご意見を述べた方をお願いします。

(委員)

男性で、居住年数が20年から30年未満のところ単純に「男性のほうに非常に優遇されている」と、「どちらかといえば男性のほうに優遇されている」であれば、上の10年から20年未満より多いと思ったので意見として書かせてもらいました。この書き方でいうと居住年数が短いほど男性のほうに優遇されている割合が高くなるということは、居住年数の短いほうから順番に減っていかねければならないが、逆に増えていたので。

(会長)

20年から30年未満のところが増えているということですね。単純に減っているのは女性のほうだということですね。事務局何かありますか。

(事務局)

男性のほうを見ると20年から30年未満については、若干飛び出して割合が高くなっており、居住年数が下がると同じように下がっているとは言えませんので、ここは修正させていただきます。

(会長)

修正というのはどのように修正するのですか。

(事務局)

「女性については」ということで、女性に特定したい。

(会長)

女性についてということですか。他にご意見ありませんか。

(委員)

居住年数の意味はどこかで説明するのでしょうか。これは地域性を書いていると思うが、私たちが決めて入れたのだけど、読んでいる人にはどう関係があるのだろうと思うと思うので。

(委託業者)

8ページの問3番の部分で、コメントとして3行目の「なお、本質問については地域性と居住年数の関連から市民の意識を分析するため設定しました」という一文を入れております。

(会長)

よろしいでしょうか。次に 21 番 36 ページ。このご意見を述べた方をお願いします。

(委員)

10 行目、「一方、『②女性は結婚したら、自分自身のことより家庭を中心に考えて生活したほうがよい。』『③夫の親を妻が介護するのは当然である。』『⑤子どもを産む回数や時期などは、女性の意思も尊重すべきである。』『⑥結婚してもうまくいかないときは、結婚を継続しなくてもよい。』で、そう思わない人の割合が減少しています。」とありますが、そう思わない人を強調しているということはそう思い始めてるということだと思います。それなら③の夫の親を妻が介護するのは当然だと思い始めたのかと思って資料をよく見てみると、右側が 15 年度で左側が 25 年の数字になっているが、③のところを見比べてみると、左から 2 つの「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う」という人たちですが、25 年度では 7.0%と 19.8%、15 年度では 8.8%と 25.0%で、「そう思う」という人の割合も減っています。ですから、この書き方だと誤解を招くのではないかと思いました。この数字はどこから来たのかとよく見たら、表の右の黒い部分ですが、2 番目で 25 年度では 19.3%、15 年度では 5.8%とあり、これが「どちらともいえない」という人たちで、ここがものすごく増えていて今回はここを「分からない」ではなく、「どちらとも言えない」ということにしましょうと前回で決まったと思うのですが、そのところで「分からない」という書き方より選びやすく、「どちらともいえない」が増えたからこんな結果になったのではないかと思いました。そのためにこのような結果が出たのであれば、ここで同じように「そう思わない」人が減少しているという表現でもいいのかなと思いました。

(会長)

事務局としてここは「そう思わない」とか「減少しています」という表現にした意図はなんでしょうか。

(委託業者)

数字の比較で差異があるものということで追求したのと、差異があるなかでどこに着眼するかということになります。

(委員)

「そう思わない」とか「どちらかと言うとそう思わない」という人の人数だけ見ると減っていたと思います。

(委託業者)

この場合「分からない」というのはご意見のとおりで、「どちらとも言えない」と少しぶれている可能性があるので「そう思わない」という所に着眼して、少しコメントを修正するということができればいいかなと思います。

(委員)

むしろ、今各委員がおっしゃったとおり、「どちらとも言えない」という人が非常に増えているので、そこは意識の変化だと思う。

(委託業者)

すみません。37 ページのグラフの下の※印をご覧ください。少し紛らわしい表現かもしれませんが、※印の最終行ですが、15 年度調査では「どちらとも言えない」の選択肢は「分からない」という形で調査をしています。「どちらとも言えない」という人が増えたのではなく、今委員がおっしゃったように「分からない」よりは「どちらとも言えない」としたことで、答えやすくそこにマルを打たれた方が増えたという可能性があるかと思います。注意書きが一番下にあると気づかない可能性がありますので、15 年度の凡例を変更した上で、コメントについても見直すということで対応したいと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。次は23 番、47 ページ以降で、家庭における役割の回答結果について、このご意見を述べた方お願いします。先ほどのクロス集計を適宜やっているようだけれどもよく分からないというご意見がありました。なぜここでクロス集計を入れたのかというご意見ですね。

(委託業者)

クロス集計についてよろしいでしょうか。今、設問によってクロス集計があったり、なかったりというご指摘ですが、事務局としては回答者の属性について全てクロス集計は一旦、全設問にかけています。そして数字としてはバックデータとして把握した上で、事務局内部の打合せで、ここについては注目すべきではないか、若しくは数字に差異が見られるのではないかということについて、追加をしています。

(会長)

よろしいでしょうか。次、27 番、63 ページで「30 代の男性の10%が理想は家庭や地域優先という特徴も、20 代の7%も見られます。」ということですが、このご意見を述べた方お願いします。

(委員)

男性の生き方の理想ということで、30 代、40 代に家庭や地域のことを仕事よりも優先するという方が結構たくさんいるのだなと思ったので、若い人の特徴なのかなと思いました。40 代で7%、30 代で10%。母数のことがあるので何とも言えないのですが、他の年代よりは多いと思って、理想は家庭のほうを優先したいという男性が増えているということかなと。

(会長)

30 歳代のところが目立って多いということですね。

(委員)

推論ですが、子どもが産まれて家庭のことをやりたいという男性が増えているというように読み取れました。私の理想ですが、そのようにできてほしいなという希望です。

(会長)

この件で何かご意見はありませんか。

(委員)

ここではむしろ理想と現実の開きがあるのが、はっきり手に取れるように読み取れる。50歳代までの世代では、理想と現実の差が大きいと、ここでは分析できるのでは。理想としてはあるが厳しいのが現実。

(事務局)

委員のご意見にございましたように、理想と現実を比較するという事で、例えば30歳代の男性のところを見ていただきますと、「仕事と家庭、地域のことをバランスよく妻と協力して行う」というところと、「家庭、地域のことを仕事より優先する」。ここを一緒に合わせて見ると30歳代の半数以上の方が協力して家庭のことをやろうと考えているのに対し、現実のところを見るとかなり低く、24%となっているので、このような形で比較するという事でいかがでしょうか。

(会長)

そのようなご意見が出ましたが、他にご意見はございますか。今、30歳代の理想のほうでは56.8%と10.8%を足した数字とこの図でいうと20.0%と4.0%の数字と差があるというところを見るということですね。

(事務局)

そうです。実際、30歳代だけではなく、40歳代などもそうですね。

(会長)

よろしいでしょうか。では、そのようにしていただくということでお願いします。

(委員)

先ほどの47ページの間13のところ、家庭における役割について、あなたの家庭で、例えば生活費を稼ぐのは男か女かということ聞いています。そういう間が13だと思います。次の48ページのところを見ますと、まず、①生活費をかせぐ、という項目について男女別のクロスをしている、それから下のほうでは年代別これも分かります。しかし、49ページの上のところ、その人に配偶者・パートナーがいるかどうかということがどう関係するのか分からない。生活費を男が稼ぐということと、パートナーがいるかどうかと、どう絡むのかというのが分からない。すべてそうなので、配偶者、パートナーがいるか

どうかということと、このクロス集計することの意味を教えてください。(配偶者、パートナーが) いろいろいまいが、この家庭では男性がするとか、女性がすると回答している中で、配偶者であろうがパートナーであろうか、あるいはお父さんとかお母さんとか、そういうことを言っているのでしょうか。そのあたりがよく分からない。正直、この部分の配偶者、パートナーの有無云々というスペースがもったいないと思いました。それを聞くならもっと別のことを聞いては、という思いがあって、どうしてもこれは聞かなければいけないような項目であるのか、それとクロスした主旨は何なのかというのを聞かせてほしいと思いました。何を分析できたのかということです。

(会長)

このご質問に対して、事務局として何か回答はできますか。

(事務局)

これにつきましては、例えば、配偶者・パートナーがいるかいないか、ということですが、結婚している場合は女性では、夫に頼っているのではないかと思います。逆に夫がいなければ自分で生活費を稼ぐという意識がもっと高いのではないかと思います。そこで実際、配偶者のいる方だけを見たときにどのような差異があるのかということで、入れたものです。

(委員)

それで、どのような差異が出たのか教えていただけますか。

(事務局)

実際、49 ページで、配偶者・パートナーがいるという方について、女性ではほとんど男性中心になっているのが分かると思います。「男性がする」25.2%、「男性が中心だが女性もする」60.6%をあわせて約85%と割合が高く、実際男性に頼っている傾向があると見えました。逆に男性側の方でどういう意識の違いがあるのかと思ったが大した差がなく、逆に男性のほうが女性に比べて生活費を稼ぐことについては、あまり差異がない。配偶者がいる、いないに関わらず、考え方に違いがないのがわかります。

(会長)

配偶者・パートナーがいない人は63%ということで、そういう意味では(配偶者の) いない人は63%なのに、いる人は85%、こういう主旨ですか。

(事務局)

そうです。他に配偶者・パートナーの有無別ということで52 ページに載せています。日常の家事において、パートナーのあるなしによりどのような影響があるかで、男性側で見ると結構(数字が) 出ていると思います。実際パートナーがいない場合は、ご自身で家事をする傾向があると思います。その辺りが実

際の動きとしてどのような影響があるのかと思い入れましたが、要らないということであれば審議していただいて見直したいと思います。

(会長)

他の方、ご意見ございませんか。

(委員)

生活費を稼ぐという項目で、配偶者・パートナーがいるかどうかを考えて書いています。ですから、おっしゃるようにパートナーがいる、生活費を稼ぐということを男性がする、という項目からいうと要らないのかなと思います。

(事務局)

スペースの関係もあり、いろいろ追加もされていますので、必要がないということであれば修正をさせていただきますと思います。

(会長)

いかがですか。逆に残したほうが良いと言われる方がおられたら・・・。

(委員)

9 ページで、最初に「あなたには配偶者・パートナーがいますか」では、20 代では配偶者のいない方がダントツに多いですね。70 代の女性では一人の方が結構いらっしゃって、そういう意味ではその人たちも 48 ページには全部、いない方も網羅しています。この中の内訳として、パートナーのいる人はなお強調して男性中心の生活体系になっていることを示しています。ということは、ここには当然のことを書いたということですね。むしろ、パートナーのいない方のほうがどうやっているのか、私は独身で女性だから女性中心ですよと言っているのか、いや、家庭の中でお父さんが男性中心の考え方で現実になのかということか、そこの方がむしろ私たちが聞きたいことであって、逆なのかなと思いました。

(委員)

高齢者になっても色々な体系があって、むしろ自身が働けないなら遺族年金とか遺産とかかかって思います。そのあたりの回答がどうなのかな。

(委員)

なかなかここからはそのあたりが読み取れない。だからあまり意味がないのではないかな。

(委員)

しかし、クロス集計をして当然の結果が出たと言うことであれば、それはそれでいいということですが。でも、それを強調する必要があったのかどうかということですよ。

(事務局)

では、ご指摘のとおり、削除いたします。

(会長)

よろしいでしょうか。次28番66ページ、「叱る時に思わず手が出してしまうということで、よくあるという方をあげたほうがいい」というご意見ですが、このご意見を述べた方をお願いします。

(委員)

「叱るときに思わず手が出してしまうことがある」で、「よくある」「ときどきある」「あまりない」「まったくない」というのをグラフにしているが、「男性に比べて女性で「ない」人の割合が高い」って、ありますが、男性に比べて女性で「,」(クォーテーションマーク)がないので、これは「まったくない」と「あまりない」をたして7割を超えていますと書かれています。43.2%と29.5%を足して72.7%ですが、「まったくない」と「あまりない」をたして「ない」ということは、「あまりない」というのは多分、手が出ていると思います。個人差と思いますが、ここを一緒にすると私自身、すごく抵抗があったので「まったくない」と「ちょっとでもある(あまりない)」は別にしてほしいと思いました。そのため、男性のほうで6.7%が「よくある」と答えられた方がおられるので、それを書いたほうがいいと思いました。

(会長)

「あまりない」という人を「ない」と別にしないでいいのかというご意見ですが、事務局、どうですか。

(事務局)

ご指摘のとおり、手がでてしまうことが少しでもあれば、まったくないとは違いますので、区別をして分析をするという方向で修正させていただきたいと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。意見を求められているのは、今のところまでなので、次は対応や意見回答書に関してその他何かご意見があれば。また、意見回答書に関わらず、その他何かご意見がありましたら。

(委員)

私は、この調査は目的ではなく手段ですから、もっとざっくりとした把握でいいのではないかと思います。ですから、みなさん色々ご意見を出されていますが、誤りのある所とか誤解を受ける所は修正、訂正をしなければならないと思うんですが、これ自体にそんなに手間ひまかけてやるよりも、もっと具体的な施策の方に力を入れてほしいなと思います。これも決して意味があるわけではないが、一体この報告書を全文読む市民は何人ぐらいいるのかということです。

(事務局)

実際、この結果報告書は市民に配布するわけではございませんが、読むとなると大変だと思いますので、市民の方には、概要版ということで見やすくしたものを作成し、全戸配布いたします。

(委員)

これの、情報開示を求めてくるような方はおられないのでしょうか。

これ自体は緻密にやっているのですが、結構ですが、すごく時間と手間をかけているので、それを具体的施策の方にまわすほうが、本来の行政目的に沿うのかなと思います。私はこの際、表現とか文言とかを気にしないで、あまり手間をかけるよりも具体的な施策のほうにかけていただきたいと思うので、あまり忠実に一言一句検討していく必要があるのかなと思っています。もっとざっくりとした実態把握でいいのではないかと考えています。

(委員)

私は、38.8%の有効回収率は多いと思います。5年ほど前に公共交通利用の件で全戸配布でアンケートをしたときには回答数3%でまとめた。なので、有効なものだと思います。

(委員)

大事なのは、分析を基にして概要版を出すときに、こういうものをめざさないといけないということを出せばいいのではないかと。

(委員)

非常に膨大な中身で、調査結果のまとめを文章で書いているが、この調査の一番大切な点は平成15年と25年の10年前との比較だと思います。男女共同参画に関する市民なり国民の意識がこの10年間でどう変わってきたのか。確かに国では色々な条例とかをどんどん作っているが、色々な問題もあって必ずしもそれが浸透していないと思います。部分的には若い世代の人の意識がどんどん変わってきているというところもあり、就労形態も経済状況も変わっている、その中で10年前と比べて意識がどう変わったのかということが比較論で言えば、10年前と比較のあるところはきちっと考察できるコメントをまとめの中に入れたほうが対策も打ちやすいのではないかと気がしています。すべて10年前のデータと比較できているのでしょうか。意識して抜いているとか、省いているようなところはないのでしょうか。

(委託業者)

ただ、10年が経過してもあまり差が見られないというところについては、まとめの中には敢えて掲載はしておりません。

(委員)

差が見られないというのは受け止め方で、全然改善、進歩していないとか、そういったことで差が見ら

れないということであれば、意識が変わっていないということ言葉を表現すべきではないか。

(委託事業者)

では、前回調査と比較できる項目については、差が見られないということを含めて追記、修正するというところでよろしいでしょうか。

(委員)

それに関連して、概要版を出すときに10年間で私たちがやってきたことが評価できる項目、こんなところが浸透してきましたよ、男女共同参画の推進がなされているというアンケート結果があったので、その辺りは素直に評価をして市民の皆さんに訴える。それから、既知として進まない項目があります、だからそれは何らかの方法が必要であるということを市民に訴える。それともう一つ、ここにきて新たに変わってきたことがあると思います。高齢化が進んできたとか、地域の関係が非常に希薄になってきたとか。労働形態もそうですが10年前と違って、新たに今、私たちが課題としていかなければならない項目をこのアンケート結果から見えてくるもので、拾い出していってそれを市民の皆さんに訴えられたら、次の施策への意見がいただきやすいのではないかと思います。

(委員)

何か、意識啓発で済ますのではなく、もっと具体的な施策を作っていないと、また同じことを10年後にやるのは勿体ないと思います。行政も問われている。私たち審議会の委員も10年間、何やっているのということになりますし。

(委員)

委員のおっしゃるとおりだと思います。

(会長)

市に対して要望、宿題もいただきましたので、このあたりで審議を切ってよろしいでしょうか。

はい、もう一点、どうぞ。

(委員)

26番で取り上げられているグラフについて非常に見にくいと思ったのですが、検討されるということで、できるものについては修正すると書かれています。いろいろ見れば前回は棒グラフで見やすいと思います。今の報告書では傾向が拾いにくいと思うので、修正できるのではないかと思いますので、もう少しそのへんを検討していただけたらと思います。

(委員)

15年と比べて、25年がどうであるか、じゃあ次の35年はどうかという問題だと思いますが、そうい

う意味では大事かなと思います。今、グラフと言われましたが、95、96 ページを見ていただくと、これは考察というよりも現状を書いていたいていると思うのですが、まず女の子では「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が圧倒的に多くなっています。ところが男性の割合が低くなっています。だからこれは網掛けをしているのだらうと思うのですが、96 ページを見るとこれも男の子は「経済的に自立した生活をしている」が圧倒的です。このあたりが、文章と表がそぐわないのではないかという気がします。

(会長)

上の説明は特徴が出ていないということですか。

(委員)

はい。女の子はこういうふうに育てほしい、ということを書いているのですよね。「家族や周りの人たちと円満に暮らす」が圧倒的に多いわけですよ。

(委託業者)

圧倒的に多いというのだけを見るのであれば、94 ページ、女の子に求めるものと男の子に求めるものについての、単純的な全体の集計で分かるという形になり、95 ページでは女の子について男性が求めるもの、女性が求めるものということで、女の子に求めるものの最も多いものではなく、女の子に求めているもので男性と女性に差があるか、という観点でコメントを付けています。したがって、女の子に対し最も求めているものとしては「家族や周りの人たちと円満に暮らすこと」ですが、女性と男性で女の子に求めるもので差があるのは、「経済的に充実した生活をする」で女性と男性を比べると、男性は女性に比べて少し低いという視点でコメントしています。

(委員)

男の子の場合も、そのあたりで言い方が違っているのが読みにくかったです。

(会長)

そこに網掛けがしてあるから、余計にそう思うのではないのでしょうか。

(委員)

網掛けしていると、これが一番ですよと取れる。

(委託業者)

分かりました。分かりやすい表現に改めます。

(委員)

それからもう一点。大阪府の調査で女性と男性が入っているところと、抜けているところがありますね。例えば、49 ページ。これは、参考は大阪府の調査ですね。女性、男性が入っているところと入っていない

いところがたくさんあったように思います。

(事務局)

確認して、修正いたします。

(委員)

事務局でご存知だと思いますが、先日、労働組合総連合で調査しまして、20代から40代の妊娠した女性の4人に1人がマタニティ・ハラスメントを受けたことがあるという実態が出ています。この調査では、そういう問題は把握できていません。これは男女共同参画の上では極めて重要な問題です。そういった問題に行政としてどう切り込んでいくのか、その点が共同参画の上で極めて重要な問題だと思います。

(会長)

行政には、ご意見ということで、受け止めていただきたい。それでは、これで審議は終了します。